

GXを東京から推進する「TOKYO GX ACTION」の一環で  
東京ガスグループによる出張授業を開催  
「東京ガスコミュニケーションズ こころの森ワークショップ」

特設サイトURL : [tokyo-gx-action.jp](http://tokyo-gx-action.jp)

東京都は、2030年のカーボンハーフ、2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、化石燃料からクリーンエネルギー中心の社会へと転換するGX(グリーントランスフォーメーション)の取り組みを加速させていきます。都民一人ひとりがGXを理解し、行動を変えていくことを目指す東京都のプロジェクト「TOKYO GX ACTION」の一環として、2025年3月6日(木)、東京都江東区の江東区立辰巳小学校で、東京ガスコミュニケーションズによる出張授業が開催されました。本授業には4年の約60人が参加。授業は講演とワークショップで構成され、児童たちは、森林が二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の削減に果たす役割や生き生きとした森を守っていく大切さを学びました。



〈授業の目的〉

本授業は「TOKYO GX ACTION」の一環として、次代を担う若い世代に身近なテーマで楽しみながらGXに関連する取り組みを知ってもらうことを目的として実施されました。東京ガスコミュニケーションズは脱炭素に向け、森について学ぶ環境教育に取り組んでおり、授業では森林の保全活動を進めるNPO法人樹木・環境ネットワーク

協会理事・事務局長の後藤洋一さん（43）を講師に招きました。後藤さんは「クイズで発見！日本の森のひみつ」と題して講演し、CO<sub>2</sub>を吸収する森林のはたらきなどについて解説。続いて行われたワークショップでは木のコースターづくりを行い、児童たちに木や森に親しむ機会を提供しました。

#### 〈講演〉

講演では後藤さんが、日本の森林面積や木の種類などに関するクイズを出しながら、森林の役割について説明。森林は大雨による土砂災害を防いだり、生き物たちのすみかになったりしているだけでなく、地球温暖化を防ぐはたらきが期待されていると述べ、樹木がCO<sub>2</sub>を吸収して酸素を生み出す光合成の仕組みを教えました。

また、樹齢が若い木の方がCO<sub>2</sub>の吸収量が多いというグラフを示し、若い木々が育つ健全な森林を保つためには「木を切って、使って、植えて、育てる」という循環が重要であることを強調。児童たちの生活空間でも机やイスなど多くの製品で木が用いられていることを例に挙げ、木を大切に使おうと呼びかけました。

そのうえで、人間が守り育てていく森林に、人間が努力してもゼロにはできないCO<sub>2</sub>を吸収してもらい、CO<sub>2</sub>排出量のプラスマイナスをゼロにすることが求められていると伝えました。



#### 〈ワークショップ〉

その後のワークショップでは、児童が木のコースターづくりに挑戦し、東京ガスコミュニケーションズの社員やその他のスタッフのアドバイスを受けながら、直径12センチ程度のヒノキに思い思いの絵や文字を描きました。児童たちは夢中になってコースターの表面を紙やすりで整えた後、マーカーで花や鳥、アニメのキャラクターなどを描きました。コースターが出来上がると、お互いに見せ合い、うれしそうな表情を浮かべていました。





〈授業に参加した児童の反応〉

講演中、児童たちは真剣な表情で後藤さんの話に耳を傾け、元気よくクイズに答えるなどして楽しみながら学びを深めました。休憩時間には、会場に展示されたスギ、カラマツ、ヒノキの丸太に触れ、「気持ちいい」「いいにおい」などと歓声を上げました。

児童の一人は「木がCO<sub>2</sub>を吸収することは知らなかった。地球温暖化を防げるのはすごいと思った」と授業の感想を語りました。別の児童は「CO<sub>2</sub>を出さないように家でも頑張ろうと思いました」と話しました。多くの児童が出張授業を通じて、木製品を大切に使い、森林を守りながら地球温暖化の進行を食い止めていく重要性を実感した様子でした。



『TOKYO GX ACTION』公式ホームページ/SNSアカウント

公式ホームページ

X

Instagram



<https://tokyo-gx-action.jp>